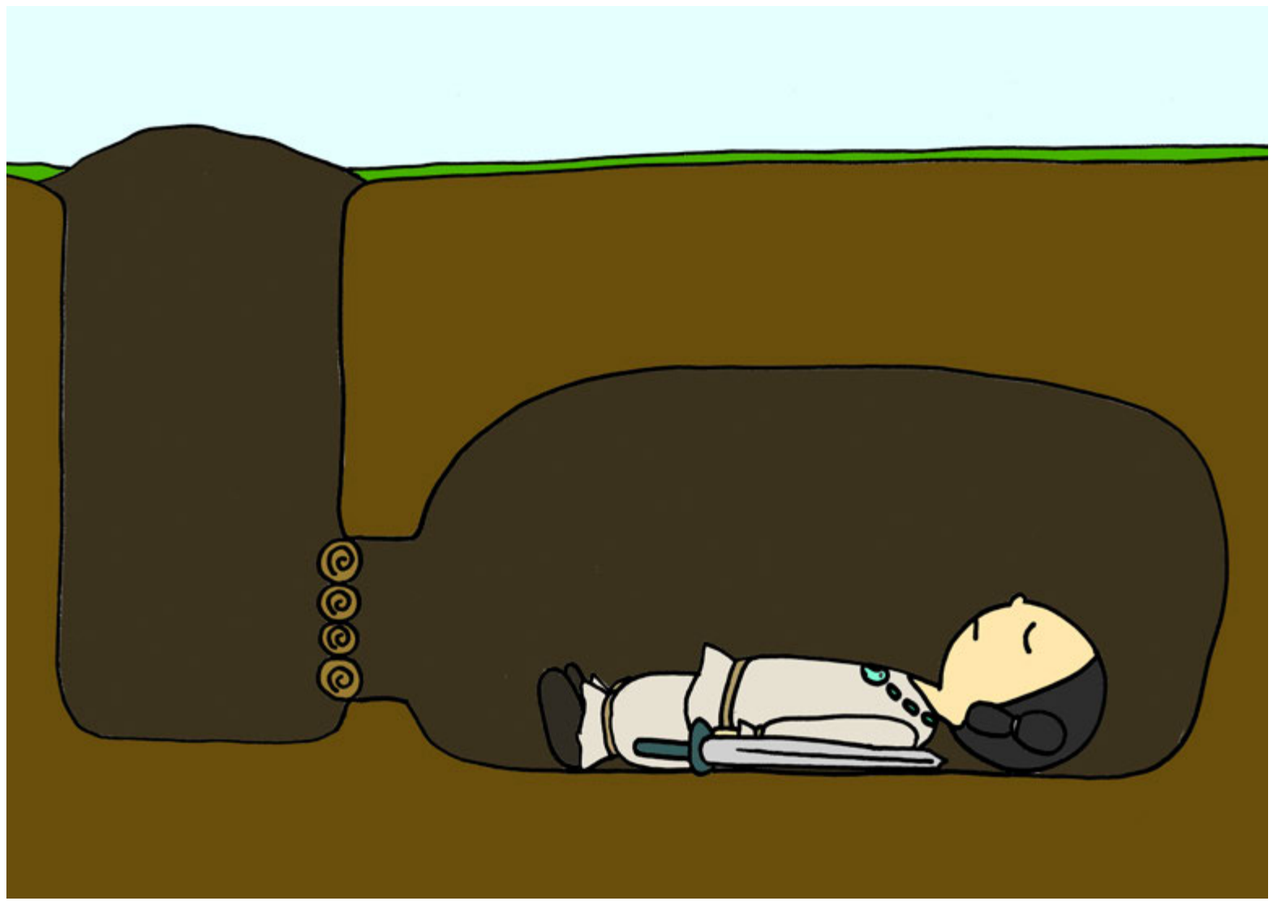
古墳時代の成果（1）

立小野堀遺跡では，地下式横穴墓の検出数が120基を越えました。一つの竪穴で二つの玄室（げんしつ）をもつものや，残りの良い人骨もみつかりました。玄室（げんしつ）をふさぐのに，丸太材を用いた痕跡（こんせき）もありました。

直刀（ちょくとう）よりも両側に刃をもつ鉄剣の方が多いことが，他の地域と異なるようです。また，鉄鏃（てつぞく）に特徴があり，15センチを越える鏃（やじり）は実用的とは考えられません。5世紀前半～6世紀にかけて，高塚古墳分布域の隣接地における墓域（ぼいき）として，両者の関わりが注目されます。



古墳時代の成果（２）

稲荷迫遺跡では，４軒の竪穴住居が報告されました。薩摩半島でみられる甕形土器は高い脚台が付くのですが，平底に近く，宮崎の特徴も兼ね備えています。それに，丸底の甕形土器も使用しています。須恵器とともに，須恵器を模倣した坏も出土しています。

また，勾玉を含む玉類が，墓以外の一般集落からみつかる例は，ほとんどありません。どの様な過程で，この集落に玉類が持ち込まれたのか解明できれば，中央権力との関わりもみえてきそうです。